

働く女性にとって結婚は大きな人生の転換期となる。いままで社会で築き上げてきたキャリアがゼロになるかもしれない。いやゼロにはならなくてもマイナス要因を抱えつつ心身を磨耗している現実がある。そうした中で、ワークライフバランス(仕事と家庭の調和)をつくり、女性がずっと美しく輝き続けるように応援したいと会社を設立した女性がいる。マザーリーフ代表取締役の榎原陽子さんだ。その軌跡と背景を探ってみた。

女性の軌跡

「女性の持っている素晴らしい能力と才能を、もっと社会に役立てたい」と語る榎原陽子さん



ANAのキャビンアテンダント時代



子どもを対象としたマナーレッスン



笑顔溢れる家族の皆さんと

「知人のひとこと」
がしっかりと信じている信頼の置ける方というのが第一印象です。女性が安心して働ける、子育てができていくという背景があった

自らワークライフバランスの実践者

【吉浜人形常務取締役 神谷毅】
この家族愛が育まれ、子どもの節句人形も次代へ引き継がれていくのです。そういう点でも榎原さんの目標としているワークライフバランスは大切です。ご主人との二人三脚で、家庭と仕事の両立を実践しながら世間に発信している姿は素晴らしい。

「現代女性の約90%が望む形が仕事と家庭、あるいは恋愛の両立です。その実現のためのお手伝いをするのがマザーリーフの役割です」
品の良さを漂わせながら、微笑むマザーリーフ代表取締役の榎原陽子さん。現在、二児の母親とは思えないほど、明るくハツラツとした雰囲気がある。
「でも会社を設立するきっかけをつかむまでは、皆さんと同じように子育てと仕事の両立に悩みながら余裕のない毎日を送っていました」

マザーリーフ 代表取締役 榎原 陽子さん

そして就職活動の一環として、日々違う人と出会いがある刺激的な職場として、また海外へのあこがれもあって、キャビンアテンダントを志望しました。
無事にANAのキャビンアテンダントに合格した陽子さん。成田の国際線、関西国際空港などで国際線業務についた。そして平成十年に最年少のコーディネーターに抜擢され、チーフパーサーとして搭乗しながら後輩の育成、組織マネジメントなどの管理業務を行うことになった。
「そんなとき、名古屋空港(現中部国際空港)ができるということと、名古屋に転勤依頼をして、故郷に戻りました。翌年には学生時代に知り合った主人と結婚。ところが、マネジメントの仕事は三年という暗黙の了解があって、一年後には転勤が予想されていたので、別居生活で子育ては難しいと

女性の仕事、家庭の両立支援

CAの経験生かしマナー教育

「子どもに負担をかけて、周りを振り回して、仕事と家庭のバランスが取れなくて体調を崩して...。何のために仕事をするのか、



妻される妻のためのマナーレッスンの一コマ

「想定外のこと起こったので、Aを退社後、人が好きで人に関わる。子どもが母乳しか飲まないの道に歩み、ワークライフバランスを実現している。しかし、ここに至るまでには、ご主人や義父母、両親、そして周囲の協力があったればこそ。心の底から感謝しています」と、底抜けの明るい笑顔を見せる。この笑顔がワークライフバランス実現の素なのかもしれない。

判断して仕事をやめました」
確かに結婚はした。しかし、まだ子どもが生まれる予兆はなかったのに、である。当時から、陽子さんのライフランができて

＜プロフィール＞榎原 陽子(さかきばら・ようこ)さん。昭和45年名古屋市で生まれる。同志社大学経済学部卒業後、全日本空輸(ANA)にキャビンアテンダントとして入社。その後、最年少のコーディネーターとなり、後輩の育成、組織マネジメントなどの管理業務を行う。13年にANAを退社。同年社会保険労務士の資格を取得。18年にマザーリーフを設立し代表取締役となる。連絡先は名古屋市千種区掘割町2/35/518 電話052・764・7415



企業の接客マナー研修で
「この「気づき」が陽子さんの仕事に対する姿勢を変えた。それまでは「仕事は金を稼ぐ」ものだったが、「仕事は社会に貢献する」ものと考え